

11.2110回 ワイン研究会報告

* 「ワイン研究会」の第10回例会は11月21日(金)に開催されました。

日時 平成26年11月21日 15時—17時

場所 カフェ「カサグランデ」(西武多摩湖線一橋学園駅傍)

出席者 荒木、井垣、伊藤(順)、伊藤(徹)、小川、栗原、佐藤(俊)、国友、竹内、富平、野村、馬場、山本、横田 以上14名(敬称略)

* この日は「ボジョレ・ヌーボー」解禁日の翌日とあって、参加の皆さん、今年のボジョレの味は如何と期待をもって参集。

会は前回のワイナリーツアの会計報告で始まり、若干の赤字は会の積立金でカバーすることに全員賛成。

* さて乾杯、というところで、荒木さん、カメラを忘れて大慌てという一幕も。… 《申し訳ございません！ガラ携帯で撮影“(---)”》

先月のツアで訪れた「くらむぼんワイン」のスパークリング赤ワインで、11月11日生まれの伊藤(徹)、山本両会員の健康を祝って、まずは乾杯。

* 今日の「ワイキキタイム」のテーマは当然に「ボジョレ・ヌーボー」。配布資料でその名の由来や意味、製法などを確認。

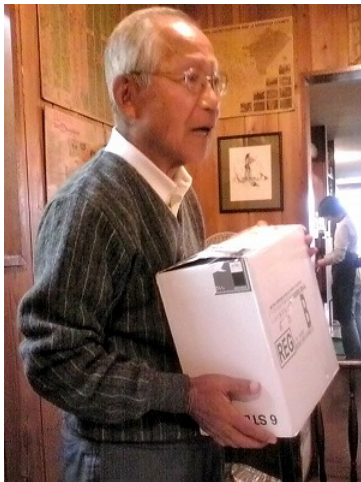
今年の出来は、品質の当たり年と言われる2005年や09年に比べて「ひけを取らない果実味豊かな味わい」とのフランス食品振興会の見解、今年のが国のボジョレワイン輸入量は昨年比8%減、などの最新情報も披露された。



「まずはボジョレヌーボのお勉強！」

* 今回用意されたのは、JALが輸入の、ボジョレ地区でも「四つ星」と評価が高いというワイナリー、ピエール・フェロー社の赤ワイン4本。

それぞれのワイングラスに今年のヌーボーが注がれて、「これがヌーボー」と十分に味わったところで登場したのが、栗原さん持参のイタリア・アブルツォ州の新酒赤ワイン。イタリアでは10月30日が解禁で、「ヴィーノ(ワインの意)・ノヴェッロ(新酒の意)」と呼ばれると栗原さんの解説。早速、仏伊競争(?)となったが、「こっちの方が美味しい」との声も。



「こうしてフランスから届きました」



「イタリアからのヌーボワインを..」

* 新酒を味わったあとは、ワイナリーツアで訪れて買ったマンズワインのプレミアムブランド「ソラリス」。

さらにチリ産赤ワインといつものとおり次々と開栓、会話も賑やかに弾んだ。

* なかでもイタリア新酒と一緒に栗原さん差入れのラスクは、清瀬稲門会でのお土産。同稲門会総会の質素ながらも地域密着型の総会だったとの報告に感心。



「早速賞味いたしましょう！」



「すっかり美酒に酔いました？」

* コーヒータイムに入って、伊藤(順)稲門会会長から「この会は実に楽しいが参加費をもう少し多くしてワインを楽しむ料理にするなど考えてはどうか」との提言がされたが、井垣会長から、会場の都合などもあり現状維持でいくことにしたい、との意向が示され「了解」となるなど、前向きな意見も交わされて有意義な会となった。

* 翌日の「稲門会秋の集い・BBQ大会」準備のために欠席者も出た今回の例会だったが、そんな事情もあつてか、二次会のカラオケもなく散会。この日、空けたワインは8本、次回持ち越しは2本となった。



「左から、イタリアのヌーボー(赤)、チリ産ワイン(赤)、フランスのボジョレ・ヌーボー(赤)×4本
日本のくらむぼんワイン(スパークリング)とマンズワイン・ソラリス(赤)の空瓶」

次回11回例会、12月19日(金)、「カサグランデ」で。例会会費は1,500円＋任意のワンコイン寄付。ワインを楽しみたい方、どなたでも歓迎。手ぶらで気軽にご参加ください。ただし、準備の都合あり、12月14日(日)までに井垣(090-1196-1471)まで申し込みの上、ご参加ください。

(文 井垣 写真 荒木)